

図書館友の会 ニュース

2026 年
7 月号
No. 39

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 杉原 富人》

「図書館友の会」定期総会を開催

図書館友の会は 6 月 10 日に定期総会を開き、2025 年度の事業報告・会計報告及び 2026 年度の事業計画案・会計予算案が承認されました。

笑いあり、楽しかった交流会

総会後は、昨年に続いて「友の会」6 教室の紹介・発表と交流会を開催しました。

今年は各教室もクイズ形式の発表を取り入れるなど、参加者が楽しめるような工夫をこらしていました。

以前、総会に参加する会員は少なかったのですが、昨年・今年と多くなり、笑いながら楽しく勉強もできる交流会になりました。来年はもっと楽しくなるかな？

会員でない方も、2 部の交流会は参加 OK です。結構、楽しめますよ。そして、ぜひ図書館友の会の活動の輪にも加わってください。



近世岸和田地域の入り組み支配

—1970 年前後光陽中学校社会科クラブで学んだ意味を考える—

講師：里井 洋一氏 琉球大学名誉教授(歴史教育)

日時：8 月 8 日(土) 13:30～16:15 参加費無料

場所：岸和田市立図書館本館(岸城町), 自習室(3 階)

近世の岸和田地域は、岡部・田沼、天領等が入り混っていました。その『岸和田地域の入り組み支配図』の作成を、光陽中学校の社会科クラブで行った自分の経験を振り返り、歴史教育のあり方について考えます。



定員 50 名(申込み先着順)

7 月 7 日(水)10 時より図書館(本館)で受付けます。直接または電話(072-422-2142)でお申し込みください。

【主催】 岸和田市図書館友の会 【共催】 岸和田市立図書館

公開講演会「久米田合戦と三好政権崩壊の危機」

6月13日（土）開催

場所 八木市民センター

参加者の感想①

「歴史は繰り返す」を再確認

（岸和田再発見教室）小西研三

「歴史は繰り返す」と言われますが、天野先生のご講演でこのことを再確認することができたように思います。



まず三好長慶が信長に先駆けて「天下人」となったと言われます。これは、当時の足利将軍の義晴や義輝を京都から追い出して、自らが将軍と同等の役割を果たすようになったことがその根拠とされますが、信長も後に足利義昭を京都から追放して「天下人」になったのと軌を一にしています。

また、長慶の弟の実休は、和泉をめぐる畠山氏との戦いで、総大将であったにもかかわらず、我々の地元の久米田で討ち死にしてしまいます。これは桶狭間の戦いで今川義元が討ち取られてしまったのが当時の歴史の転換点となったのと同様、三好氏の没落のきっかけとなる歴史の転換点となった大事件でした。

仲の良い兄弟の弟が死ぬと一族全体の没落に繋がるというのは、今年の大河ドラマの豊臣秀長の死によって、秀吉が利休や秀次を切腹させたり、朝鮮出兵を強行することになり、豊臣家滅亡の遠因を作ってしまったことを連想させます。このように、三好氏の興亡を知ること、後の時代の歴史を理解する上でも色々参考になることが多いご講演でした。

参加者の感想②

三好一族のことが生き生き胸に迫ってきた

（戯曲教室）井出 光地子

今回、三好長慶、実休という人々の予習もせずに、久米田合戦という戦さが、身近な場所で行われたということへの浅はかな好奇心だけで聞きに行ったのですが、聴いているうちに、三好氏という一族が生き生きと胸に迫ってきました。人間の欲や浅はかさの上に、歴史は作られ、それをまた人が都合よく切り取り後世に伝える、そこを研究し、わかりやすく話して下さった貴重なお話でした。ありがとうございました。

岸和田ブックフェスタ・2026・春

ブックフェスタ「戯曲教室」

5月24日（日）図書館本館・3階会議室で開催



毎月開催している「戯曲教室」を初めて公開にして、戯曲を朗読劇風に本を読み合わせました。

シェイクスピア作『リチャード三世』（新潮文庫）をテキストにして第4幕第1場以降を、教室メンバーが配役分担し、声を出し読み合わせました。

見学者からは、「みっちり朗読されているのに驚きました。パワフル。」、「長い台詞で大変だと思いました。」との感想が寄せられました

落語で笑おう



落語で人生を楽しもう

落語倶楽部「笑泉会」による「落語」とお話会が
4月26日(日) 図書館本館・3階視聴覚室で開催。

〔ごまめの感想〕

- ・今回は絵本にある「初天神」「七度狐」「饅頭こわい」の三席を、じっくりと聞いていただきました。
- ・初めての方も多く、落語に興味をもって頂いたのは、嬉しいかぎりです。
- ・小さなお子さんも多く、今後とも 落語ファンの拡大に努めたいと思います。

* 秋の10月25日の「図書館まつり」には、6席の落語会を予定しております。こうご期待。

歴史カフェ

日本人の起源2ー古代 DNA 解析の結果からー

5月10日(日)開催 場所 岸和田市八木市民センター

参加者の感想①

まだまだ奥が深そう

(西林茂樹)

「縄文人とは？」を中心テーマのお話の中で、縄文人は東ユーラシア人の中でデニソワ人 DNA 比率が低いことから、ユーラシア大陸を東方へと移住し続けた民族グループがデニソワ人とはほとんど交雑することなく東南アジアを経由して日本列島に渡来し、縄文人の祖先となった可能性が高く、東南アジアに居住していたホアビニアンと呼ばれる民族グループの DNA に近いということが一番興味深かったです。まだまだ奥が深そうで、ぜひ「日本人の起源3」をお願いします。

参加者の感想②

「科学はうそをつかない」の思いを強くした

(再発見教室) はやし よしかず

今回のサイエンスカフェでは、杉原富人先生から古代 DNA 解析の最新成果を学びました。講義を聴きながら、私は、あらためて「科学は嘘をつかない」という思いを強くしました。

デニソワ人と現代人の関係、日本人の“三重構造”説、そして縄文人とホアビニアンの近縁性など、これまでの常識を更新する内容が多く、大変刺激的でした。

特に、2010年以降の技術革新により、ミトコンドリア DNA から人類の移動史がより明確に読み取れるようになった点は興味深く、生命の起源や「ミトコンドリア・イブ」についての理解も深まりました。

午前11時過ぎからは、参加者との議論の時間が設けられ、質疑応答では、レイシズムや天皇制に話題が及ぶ場面もありましたが、杉原先生は「科学的事実と社会的議論は混同しないことが大切」と丁寧に説明され、私自身もその姿勢に深く納得しました。

学ぶ楽しさを改めて感じるとともに、頭の体操にもなり、次回「日本人の起源3」への期待がふくらみます。企画・運営の皆さま、そして杉原先生に感謝いたします。

☆ 今年の「文学歴史散歩（バスツアー）」

11月18日(水) 近つ飛鳥博物館・弘川寺へ

大阪府立近つ飛鳥博物館を訪問し、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された背景および前方後円墳国家成立過程を



近つ飛鳥博物館



弘川寺

実地見聞します。また、歌人・西行法師

が永眠した弘川寺を訪問し、西行にまつわる絵画、書、資料なども実地見聞します。

【参加費】5,000円（ただし、昼食は各自で持参ください）
10月15日より受付。詳細は10月号で掲載します。

地名の秘密

㊿ 百舌鳥(もず)

大阪府堺市にある地名で、仁徳天皇の故事にちなむ地名に由来します。岸和田に住む私は、なんの抵抗もなく百舌鳥（もず）と読めますが、読み方が大変難しい部類の地名に分類されています。この地名は大阪府堺市にあります。と改めて言うのも、違和感がありますが……

堺市は大阪府下第2の都市「政令指定都市人口は約82万人」。歴史文化遺産が多く、中世には海外交易の拠点として自由・自治都市を形成して、経済・文化の中心地として栄えました。

百舌鳥駅は、JR西日本阪和線天王寺駅から10番目の駅で、昭和4年設置駅です。仁徳御陵前停留場として開設、昭和19年百舌鳥駅に改称されました。片仮名表記（もず）より漢字表記（百舌鳥）の方が、字数が多い珍しい駅名として知られています。

大昔、この地は石津原（いしつのはら）と呼ばれていました。ある時、仁徳天皇が石津原に出向いて陵の造営工事を始めます。すると突然、野の中から鹿が飛び出してきました。その鹿は工事の場所に入ってきて走り回った後、倒れて死んでしまいました。不思議に思った人達が調べてみると、鹿の耳から百舌鳥が飛び出してきたのです。その鹿は百舌鳥によって耳の中を食べられていたことが原因で亡くなっていました。このことからこの石津原の地は百舌鳥耳原（もずのみみはら）と呼ばれるようになりました。これが日本書紀にあるお話です。由来には別説があります。ここのもとの地名は毛受（もず）であり、ここから鳥のモズの話が作られたのだといいます。ちなみに百舌鳥は昔百舌鳥百済村と呼ばれていました。この地名からも分かるように百済系渡来人がおおくすんでいたようです。百舌鳥はもともと「百舌」と書いていました。「百の舌を持つ鳥」という意味で当てられた漢字です。モズはとても鳴きまねが上手で、他の多くの鳥の声を次々と真似して鳴きます。その様子から「まるで舌がたくさんあるみたいだ」と考えられたことが「百舌＝百の舌」という表現につながったと説明されています。元は「百舌」の2字だけでもモズを指しましたが、鳥の名前だとはっきりわかるように「鳥」が後からつけられ「百舌鳥」と書く形が広がったと言われています。

【参考資料】『大阪難読地名がわかる本』創元社。『47都道府県地名の謎と歴史』
kkベストセラーズ 【文責】 文章教室 浦田榮二